

はじめに



C40 気候変動東京会議は、世界各地から 32 の大都市の参加を得て、2008 年 10 月 22 日から 24 日にかけて、東京都主催で開催しました。

地球温暖化は、既に世界各地で深刻な影響を与えており、思い切った手を打たなければ、人類にとって破局的な事態が予測されます。

世界の人口の 5 割が居住するまでになった都市は、文明社会を発展させる原動力であります。一方で、都市は人口や経済活動が集中し、資源やエネルギーを大量に消費して、地球環境に耐えがたい負荷をかけており、都市の役割と責任は重大です。

東京都は、2020 年までに東京の温室効果ガス排出量を 2000 年比で 25%削減を目指すとともに、環境確保条例を改正し、我が国で初めて CO₂削減の義務化と排出量取引制度を導入することとしています。

今後とも、この面での取組みを強めるとともに、環境先進都市として世界に貢献するため、本会議を開催いたしました。

会議では、専門家や実務者が集い、温室効果ガスの削減策に加え、C40 としてはじめて、温暖化から人間社会を守る適応策について重点的かつ具体的に議論を行いました。

その結果、気温上昇や水不足、自然災害、食糧問題などの分野で、これまで各都市が培ってきた技術や経験を分かち合い、課題を共有する都市の間に 13 の「共同行動」を立ち上げました。今後、これらを具体的に推進し、来年 5 月のソウル・サミットでもその成果を報告いたします。

また、温室効果ガスの削減に向けては、国際社会が連携して思い切った舵を切るべきですが、国家がその役割を果たさないのであれば、都市がリードしていかなければなりません。京都議定書に続く新たな枠組みを決める来年末の COP15・コペンハーゲン会議に向けて国家を動かすべく、都市の行動を糾合し、強力にアピールして参ります。

平成 20(2008)年 12 月

東京都知事 石原 慎太郎

A large, bold, black ink handwritten signature of Shiro Ishihara. The characters are stylized and fluid, typical of a personal signature. It is written in a cursive-like style.